

## 韓国青年訪日団第5～7団（招へい）の記録

### 1. プログラム概要

【目的】「対日理解促進交流プログラム(JENESYS2022)」の一環として、在大韓民国日本国大使館、在釜山日本国総領事館、在済州日本国総領事館にて選抜された高校生等を招聘し、テーマ「SDGs（持続可能な開発目標）～もったいない文化（フードロスと環境問題）」の下、各種視察、講義、日本の同世代との交流等を通じて、日本に対する理解を深めることで、今後の日韓間の相互理解と信頼関係増進の基盤強化に寄与することを目的とする。

#### 【参加者】

プレプログラム（オンライン）：韓国の高校生等 108 名

招へい（オフライン）：韓国の高校生等 107 名

#### 【訪問地】

東京都、大阪府、兵庫県

### 2. 日程

プレプログラム（オンライン）：

2月10日（金）訪日前オリエンテーション

来日プログラム：

2月19日（日）成田国際空港・羽田国際空港より入国、来日時オリエンテーション

2月20日（月）【講義】外務省「最近の日韓関係」、大阪府へ移動

2月21日（火）【講義】「ふーどばんく OSAKA」の取り組みについて（堺市貿易大臣会合協議会事務局宮前次長 視察のため来訪）、【視察】いずみふれい農の里、葉菜（はな）の森（食品ロス対策等の取り組み実例）

2月22日（水）【視察】射手矢農園（食品ロス対策等の取り組み実例）、【講義】袋谷タオル合資会社及び廃棄野菜で作られた絵具を使用したワークショップ（千代松泉佐野市長 視察のため来訪）

2月23日（木）【交流】日本の同世代との交流～鶴橋などをフィールドワーク、【視察】人と防災未来センター、【講義】阪神淡路大震災被災者の体験談

2月24日（金）【視察】大阪環境産業振興センター「おおさかATCグリーンエコプラザ」（各企業のSDGsへの取り組み紹介）、あべのハルカス（最先端の環境技術や制振装置等）、成果報告会

2月25日（土）関西国際空港より出国

### 3. プログラム記録写真（訪問地：東京都、大阪府、兵庫県）



2月20日【講義】外務省「最近の日韓関係」



2月21日【講義】「ふーどばんく OSAKA」の  
取り組みについて



2月21日【視察】いずみふれあい農の里



2月22日【視察】射手矢農園



2月22日【講義】袋谷タオル合資会社



2月23日【視察】人と防災未来センター



	
<p>2月24日【視察】大阪環境産業振興センター「おおさかATCグリーンエコプラザ」</p>	<p>2月24日【成果報告会】</p>

#### 4. 参加者の感想（抜粋）

##### ◆ 韓国 学生

日本が抱える社会問題のひとつであるフードロス問題を通じて、学校では学ぶことのできない「日本」を深く知り、捨てられる食品についてももう一度考え直すようになりました。持続可能な環境及び安全な生活のために、企業と人々が様々な努力をしていることを知れて良かったです。

##### ◆ 韓国 学生

様々な分野において日本の文化を理解できました。なかでも「もったいな文化」の学びを通じて、容易く浪費してしまう生活習慣を振り返るきっかけとなりました。また、近ごろ自然災害の頻度が多くなっているにも関わらず、韓国ではその危険性や教訓について知らないことも多く、「人と未来防災センター」での学びも大変参考になりました。学んだ内容を今後の生活で実践していき、学校での授業や、SNS等様々な方法で周りの人々に伝えていきたいと思います。

##### ◆ 韓国 学生

韓国では経験することのできない日本ならではの環境対策、災害対策を直接見て感じることができ良かったです。同世代との交流では、日本の友人と直接対話をしながら、文化の違いを感じ、知ることができました。

#### 5. 受入れ側の感想（抜粋）


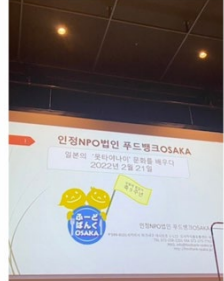
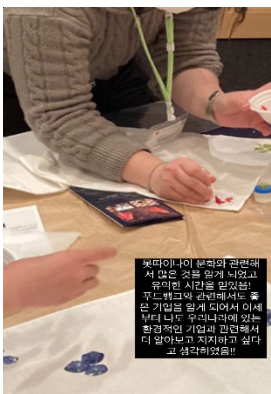
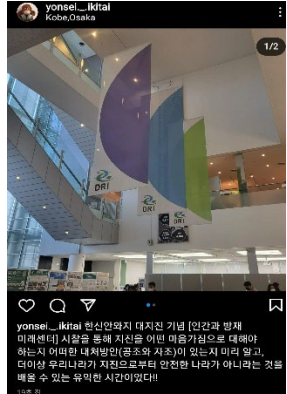
##### ◆ 視察先関係者


今回は「もったいない」をテーマに、苺の消費形態や地産地消についてお話しをさせていただきましたが、皆さんの日本語の理解力には大変驚きました。国際交流の意義は、国籍や人種や年齢の違いを障壁とせず互いを尊重しあうことで心の中に平和を芽生えさせることだと私は捉えています。今回はまさにそのような時間でした。とても貴重な時間を頂きありがとうございました。

◆ 講義関係者

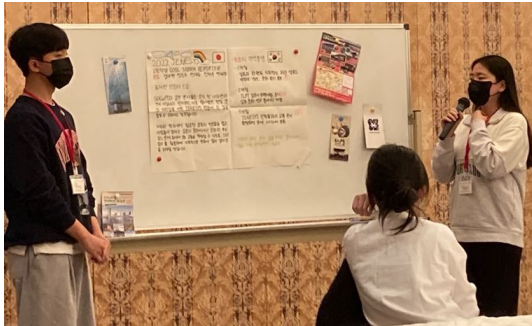
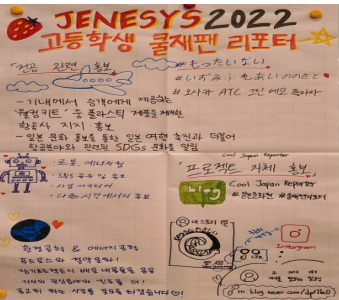
今回、当団体の活動概要や具体的な取り組みについて韓国の高校生に紹介しましたが、皆さん真剣に聞いてくれたほか、たくさんの質問をいただき、講演時間が短く感じました。今後も私たちの活動を応援していただければ幸いです。

6. 参加者の対外発信

 <p>둘째 날에는 한일관계에 관한 의무성의 강의를 들었다. 가장 인상 깊었던 것은 2번의 현재의 한일관계 개선사항이다. 한국과 일본은 역사적으로 얽힌 것이 많기에 현대에 와서도 풀어야 할 것들이 많다. 그런 것들을 해소하기 위한 여러 생각해 볼 질문들을 강의에서 던져 주셨는데</p> <p>ツイートを翻訳</p>  <p>返信先: 단순히 시간이 흐르면 이러한 갈등관계가 해결될 것이라 생각했던 나를 돌아보게 되었다. 양국 간 문화적 교류는 많아졌지만 역사적 갈등은 지속되고 있는 지금 양국간의 지속적 대화를 통한 확실한 역사 정립, 교육이 무엇보다 필수적이라고 느꼈다. 오사카로의 이동도 최고였다!</p>	 <p>푸드뱅크 강사가 나에게 너무 인상적이라 아침인데도 불구하고 끝까지 들었다. (나 자신 멋있오) 이 푸드뱅크 오사카는 유통기한이 임박한 상품들이나 기부받은 물품을 배기장에서 생계유지가 어려운 분들에게 나눠드리는 따뜻한 사회적 지원 단체이다. 식품관리법이나 위생법 등을 위반하지 않으려 고민하는 이 단체가 너무 멋있었다. 후에는 못타이아 이 (일본어로 아랍다) 정신을 지닌 딸기 농장에 방문했다.</p>
<p>外務省講義についての発信</p> <p>最も印象深かったのは日韓関係改善についてのお話で、韓国と日本は歴史的な関わりが深く、現在でも解決しなければならないことが多いです。講義ではそのようなことを解決するために様々な問いを投げかけてくださいましたが、単純に時間が経てば解決されると思っていた自分自身に気づくことができました。両国間の文化的交流が増えた一方で、歴史的葛藤が続いている今だからこそ、持続的な対話を通じた歴史の確立と教育が大切だと感じました。</p>	<p>ふーどばんく OSAKA の講義についての発信</p> <p>フードバンクの講義が私にとってはとても印象的でした。「ふーどばんく OSAKA」は消費期限の近い商品等の寄付を受け、必要とされる方々に届けるという、温かい社会支援団体です。食品管理法や衛生法等を違反しないよう尽力しながら活動する、この団体がとても素晴らしいと思いました。講義の後は、「もったいない」精神を実践するいちご農家を訪れました。</p>
 <p>꽃피어나이 분위기와 관련하여서 많은 것을 알게 되었고 유익한 시간을 보냈습니다. 푸드뱅크와 관련하여서는 좋은 기업을 알게 되어서 이제부터 더욱 우리나라에 있는 환경적인 기업과 기업에서 더 알아보고 지지하고 싶다고 생각되었습니다!!</p>	 <p>yonsel_kirai ほんしんあぢ 大津  기념 (2/22)과 함께 미래센터(1) 시찰을 통해 자신을 어떤 마음가짐으로 대해야 하는지 어떠한 대처방안(금초와 사초)이 있는지 미리 알고, 디이성 우리나라가 지금으로부터 안전한 나라가 아니라는 것을 깨울 수 있는 유익한 시간이었습니다!!</p>
<p>もったいない文化についての発信</p> <p>もったいない文化について多くのことを学んだ有意義な時間でした。フードバンク</p>	<p>人と防災未来センターについての発信</p> <p>阪神淡路大震災記念「人と防災未来センター」視察を通し、地震に対してどのような</p>

<p>に関連した企業についても知ることができ、今後は私も韓国内で環境問題に力を入れている企業について調べ応援していきたいと思いました。</p>	<p>心構えであるべきか、どのような対処方法（共助と自助）があるのかを学ぶとともに、韓国も地震に対し決して安全な国ではないということを学んだ有意義な時間でした。</p>
<p>오사카 ATC 그린에코프라자 (환경 산업 진흥센터) 에 방문하였습니다. 일본의 SDGs 사업 에 대해 배웠고 미래친환경과 재생에너지, 리사이클의 중요성을 배웠습니다 이것이 일본 사회에서만 적용되는 것이 아니라 모든 나라에 포함되야할 중요한 문제라고 생각 합니다.</p> 	 <p>jin4026_1 2023.02.24. 방일단 마지막일</p> <p>오사카 ATC 그린 에코 플라자 견학, 아베노야루 카스 맥아드투어</p> <p>- 시설 내에서 발생한 음식물 쓰레기를 연료로 냉난방을 하고, 떨어지는 빗물을 모아 화장실수로 사용하는 에코시스템. 견학이 아니었다면 들렀을 만큼 관광 시스템에 놀랐다.</p>
<p>おおさかATCグリーンエコプラザについての発信 おおさかATCグリーンエコプラザを訪問しました。日本の SDGs 事業について学び、地球環境に向けた取り組みや再生可能エネルギー、リサイクルの重要性について学びました。これらは日本社会だけの問題ではなく、すべての国における重要な問題だと思いました。</p>	<p>あべのハルカス視察についての発信 あべのハルカスでは、建物内で発生した食べ残しを各施設の冷暖房の燃料に活用しているほか、雨水を溜めてトイレを流す水として利用するなどエコシステムを取り入れています。今回の視察でなければ知りえなかった建物の安全性と環境システムに驚きました。</p>

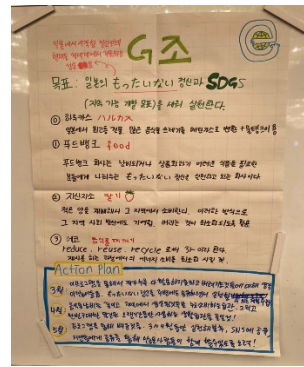
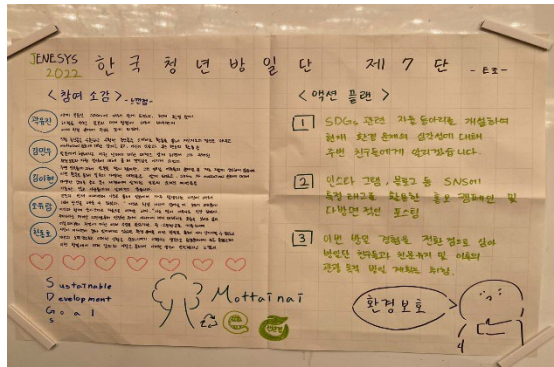
## 7. 報告会での帰国後のアクション・プラン発表

	
<p>アクション・プランの発表 1 -学校の部活動で、もったいない文化について紹介する。 -環境問題に対する討論会を実施する。 -広報用ポスター作製する。 -今回の訪日で出会った人々と、引き続き交流を続けていく。</p>	<p>アクション・プランの発表 2 「各専攻分野において広報を実施する」 -観光専攻：脱プラスチック等エコな取り組みを実施している航空会社を支持、日本の SDGs 文化と共に日本への旅を紹介。 -環境工学&amp;エネルギー工学専攻：食品ロスと節約文化を実践する様々なアイデア</p>



-もったいない文化に関する漫画を制作する。  
-当団についてまとめた短編映画を制作する。

を SNS で発信して共有、専攻分野からより深い関心を持って見つめなおす。  
-全体共通アクション・プラン:クールジャパンリポーターとして、SNS やブログで訪日団のことや自分たちの取組を積極的に広報する。



アクション・プランの発表 3

-SDGsに関連した自主サークルを作り、現在の環境問題の深刻性について周囲の友人たちに知らせる。  
-Instagram、ブログ等のSNSで特定のタグを活用した広報キャンペーン及び多方面へのポスティング。  
-訪日団での経験を契機に、訪日団の友人たちとの親睦を維持し、今後の訪日計画を立てる。

アクション・プランの発表 4

-もったいない精神を周囲に共有しながら、実践可能な計画を樹立する。  
-食べ残しを減らし、地域で生産された物を消費する習慣作りとともに、一度購入した物を長く使い続ける生活習慣作りをする。  
-プログラムで学んだことを3~4か月間実践後、SNSで知人に共有する。

実施団体名：公益財団法人 日韓文化交流基金